

「クボ・イワ」：^{とう}バリ島^{はなし}のお話



^{はなし} ^か
お話を^か書いた人：Sherrene Chua (シュリーン・チュア)

むかしむかし、バリのキンタマーニに、とて
もお ひと なまえ
も大きな人がいました。名前はクボ・イワで
す。かれはとてもおお っよ
も大きくて、強いです。

ときどきクボ・イワは村の人を助けたり、家
むら ひと たす いえ
やお寺などを作ったりします。
てら つく



クボ・イワはとてもよく^た食べます。でも、^て手
つだ ^{あと} 伝った後は、^{むらびと} 村人の ^{ひやくにん} 百人ぶんの ^た 食べ物^{もの}をほ
しがります。^{むらびと} 村人たちは ^{りょうり} たくさん ^{じゅん} 料理を ^び 準備
しないといけません。



た もの おこ
食べ物がなかったら、クボ・イワは怒りま
むらびと いえ てら ぜんぶ
す。村人の家やお寺などを全部こわしてしま
います。

た もの
ある日、食べ物がありませんでした。それは
いっ げつかん あめ
1か月間、雨がふらなかつたからです。



「ああ、おなかがペコペコ！ ^た ^{もの} 食べ物はどこ？ ^も はやく持ってきて！」クボ・イワが ^い 言いました。

「すみません、クボ・イワさん。 ^た ^{もの} 食べ物がありません。 ^{あめ} 雨がふりませんから。」となりの ^{おんな} ^{ひと} ^い 女の人 ^い が言いました。

「ゴロゴロゴロゴロ…」

^{おお} ^{おと} ^き 大きな音が聞こえます。



クボ・イワは怒おこって、みんなの家いえをこわしま
した。村人むらびとたちはパニックになりました。そ
して、村人むらびとたちは計けい画かくを立たてました。

つぎ ひ むらびと
次の日、村人たちはクボ・イワの家いえに行いきま
した。

「クボ・イワさん！ 昨日きのうのことは本ほん当とうにご
めんなさい、今日きょうはすぐ食たべ物ものをもってきま
すね。」

「でも、^{りょうり}料理するの^{みず}に水がいります。ク

ボ・イワさんは井戸^{いど}を掘^ほってください。私^{わたし}

たちは^{りょうり}料理します。たくさんおいしい^{りょうり}料理

^{つく}を作りますよ。」

「200人^{にん}ぶんの食^たべ物^{もの}がほしいぞ。」クボ・

イワが^い言いました。

「はい、わかり^{むらびと}ました。」村人^いたちが言いま
した。



そして、クボ・イワが^{わら}笑いました。

「^{はじ}ハハハハハ！ いま始めるよ。」

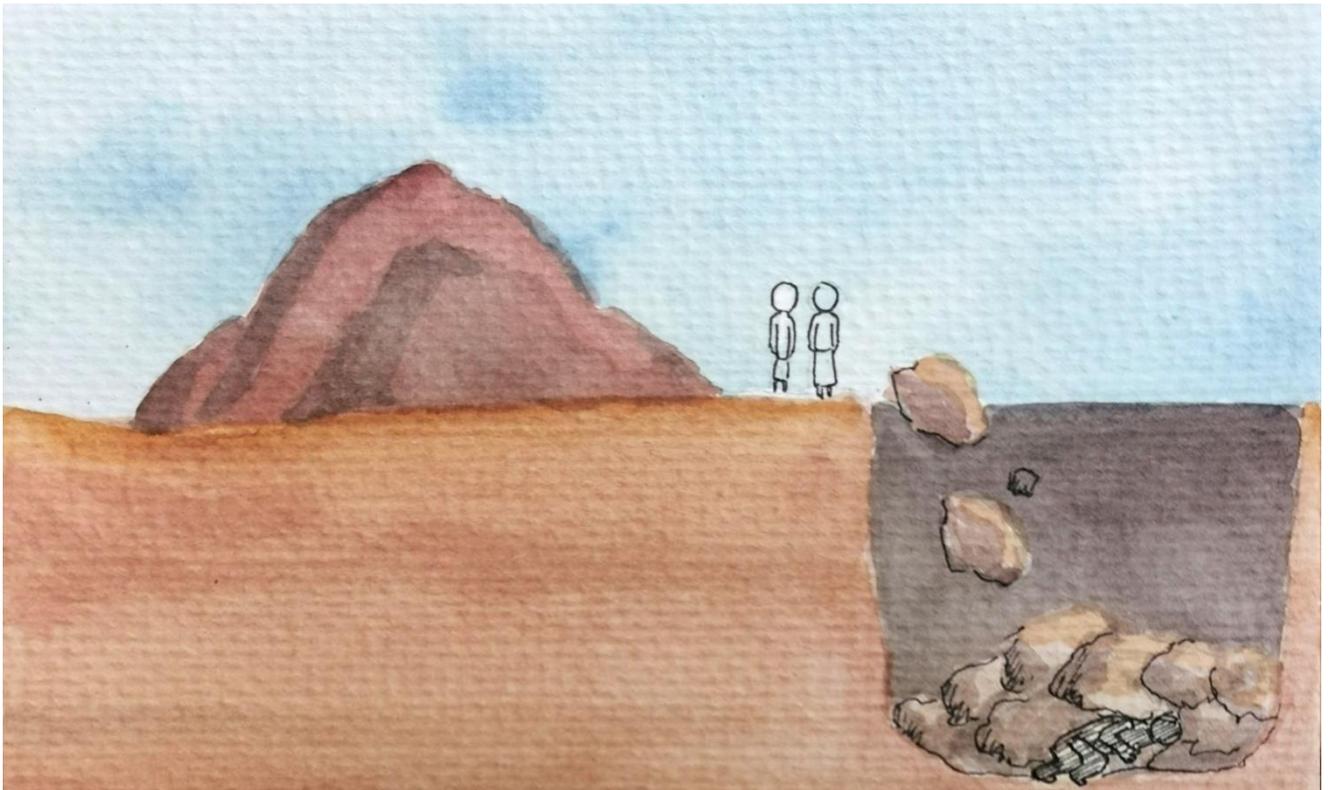
クボ・イワは、^{なが}長い^{じかん}時間、^{いど}井戸^ほを掘りつづけ
ました。^{じかん}2時間、^{じかん}3時間、^{じかん}5時間。^{ごご}午後6時
^{いど}ぐらい、^{ふか}井戸は深くなりました。クボ・イワ
^{つか}はとても疲れていました。





つか ぼく いど ね
「疲れた！ 僕はこの井戸で寝るぞ。」

かれは言いました。



「はやく！ クボ・イワを埋めるぞ！」

むらびと
村人たちはクボ・イワが寝ている時に、
い
言いました。「おう！」

つち いわ
土と岩をたくさん井戸に投げました。ク
ボ・イワは起きた時、からだが動けなく
て、死にました。

そして、クボ・イワがなくなった井戸は
バトゥール湖になりました。かれが掘っ
た後の土がバトゥール山になりました。

(バトゥール湖とバトゥール山の絵)

